多文化共生のまちづくりにおける学びのデザイン化拠点の創出

Creating a Platform of Learning Design toward a Multicultural Local Community

研究代表者 宋悟（NPO法人IKUNO・多文化ふらっと 事務局長）
ほんまなほ（COデザインセンター 教授）
榎井縁（人間科学研究科附属 未来共創センター 特任教授）

研究協力者
［学内］高橋綾（人文学研究科 講師） 今井貴代子（SSI 特任助教）
［学外］高谷幸（東京大学大学院人文社会系研究科 准教授） 佐伯康考（静岡文化芸術大学文化政策学部 准教授） 金和永（NPO法人クロスベイス事務局長）
小泉朝未（大阪市立大学都市研究プラザ 特別研究員・一般社団法人HAPS） 栗田拓（NPO法人トイボックス 代表理事） 郭辰雄（NPO法人 コリアNGOセンター 代表理事）
朴基浩（映像クリエーター）

1. プロジェクト概要

大阪市生野区には、在日韓国・朝鮮人の集住地域があり、日本最大の大阪生野コリアタウンがあります。近年はベトナムなど「ニューカマー」と呼ばれる人びとも急増しており、区民の5人に1人が外国籍住民、その比率は全国の都市部で最も高く（21％）、66か国の国・地域の人びとが暮らしています。経済的に困難を抱える家庭が多く、就学援助率は全国の2倍以上です。外国にルーツのある子どもなど多様な文化的背景を持つ家族の教育・生活面の安定化に向けたしくみづくりが早急に求められています。

こうした課題に取り組むために、2019年6月、生野区において、市民主導のプラットフォーム「IKUNO・多文化ふらっと」が発足しました。ふらっとは、2020年3月に閉校になった同区にある大阪市立御幸森小学校跡地の活用事業にかかわり、企業との共同事業体を構成し、公募型プロポーザルを経て、民間事業者として選定されました。現在、学校跡地は「いくのコーライブズパーク」（略称：いくのパーク）として、多文化共生のまちづくり拠点になっています。

本プロジェクトは、生野で進められている多文化共生のまちづくりに地域と大学が連携して取り組んでいこうとするものです。合理化や競争のなかでひとびとが分断される時代において、本来あるべき教育のすがたを、未来ではなくいまを生きる子どもたちとともに、この地でとりもどすことを目指しています。そのために、わたしたちにのしかかる力をほどき、〈ちがい〉を意識化することで縫りあわされる〈つながり〉の糸でわたしたちの知を編み直すための、さまざまなジャンルを横断する対話と創造活動を繰り広げています。

2. 2022年の取組と成果

2022年は合計7回のプロジェクト会議を開催しました。準備期間を経て10月に〈いくのふらっとだいがく〉を開校しました。それ以外にも昨年から取り組んでいた、生野・日本語指導が必要な子ども白書プロジェクトの成果として『生野の“日本語指導が必要な”子ども白書』を刊行し、「社会のための大学」を目指す教育・表現活動として生野をフィールドにした授業やアート活動などを行いました。

❶〈いくのふらっとだいがく〉の開校・運営

〈いくのふらっとだいがく〉は、〈ひとびとのあいだのちがい〉、と〈ひとびとのくらし・生活〉からまなぶ、ということを原点として、IKUNO・多文化ふらっとと大阪大学の協働プロジェクトとして、いくのコーライブズパークを拠点に、各種の講座やワークショップを提供していきます。

〈いくのふらっとだいがく〉コンセプト

〈いくのふらっとだいがく〉広報用ホームページ

12月18日開催の〈いくのふらっとだいがく〉未来共生セミナー

その開校イベントとして10月15日、1992年に公開された佐藤真監督による新潟水俣病のドキュメンタリー映画『阿賀に生きる』、そしてその30年後の今年2022年に公開映画された、佐藤睦監督と旗野秀人プロデューサーの映画『それからどしたいっ！「阿賀に生きる」その後』の上映会、そして旗野さん・佐藤さん他によるトークを開催しました。

また、地域や実践の現場での博士課程教育に取り組んできた未来共生プログラム10周年記念事業とコラボレーションをして、〈いくのふらっとだいがく〉未来共生セミナーを開催しました。

◆2022年12月18日開催

「差別をなくす社会のためにやってきたこと」

梁・永山聡子さん（成城大学 グローカル研究センター 研究機構客員研究員）

聞き手：高橋綾さん（人文学研究科講師）

◆2023年1月22日開催

「マイノリティとして生きること」

呉永鎬さん（鳥取大学地域学部准教授）

聞き手：瀬戸麗さん（人間科学研究科博士後期課程）

❷『生野の“日本語指導が必要な”子ども白書』を刊行

大阪市生野区に住む“日本語指導が必要な”子どもの現状を調べるため、子ども・保護者・支援機関へのインタビュー調査プロジェクトに取り組みました。その結果を『生野の“日本語指導が必要な”子ども白書』にまとめ、6月26日、在日韓国基督教会館（KCC）にて報告会を開催しました。NPO、大学関係者、大学生・大学院生からなるプロジェクトメンバーで何度も会議・検討を重ねてきました。白書では、子どもにかかわる人びとがまず一歩を踏み出すこと、“日本語指導が必要な”子どもの声の協働的な捉え直し、子どもを中心に据えた地域づくりを提言しています。白書プロジェクトを通じて明らかになったことや確認されてきたことを、ばづくりやまちづくりの今後の展開に生かしていきます。

コリアタウン周辺で映像を撮る（映像作品より）
＊YouTubeチャンネル　cafeimage で公開中
（上）夏休みのすすみかた、（下）商店街の歩き方

❸「社会のための大学」を目指す教育・表現活動

大学生と地域との接点を生み出す教育活動としては、継続して、大学授業へのゲスト講義、コリアタウン・フィールドワーク、生野まち歩き、アート・表現活動を行いました（COデザインセンター授業科目「マイノリティ・ワークショップ」「マイノリティ・セミナー」、人間科学研究科授業科目「コンフリクトと共生の諸課題」など）。

3. プロジェクトの今後

2022年4月からいくのパークを拠点にした活動がスタートしました。多くの活動が対面に戻り、身体と空間を共有するばづくりが進められています。〈ふらっとだいがく〉は、〈ひとびとのあいだのちがい〉と〈ひとびとのくらし・生活〉から学ぶことを原点にしています。生まれたばかりの〈ふらっとだいがく〉を共に育てていこうとするメンバーを増やし、継続して運営していく体制やしくみなどを整えていきたいと思います。